

第1回 地域包括ケア研究会（コロナ禍における入退院支援・在宅復帰のために）アンケート集計

（令和4年8月25日）

（15病院22名・11名回答）

1. 講演「2025年～2040年の地域包括ケアシステム構築に向けて－身の丈音痴の身の程知らず－」を聞いて

（講師：光生病院 佐能量雄 理事長／岡山県病院協会 専務理事）

A.

a. 大変勉強になった	6名	c. どちらとも言えない	名	未記入1
b. 勉強になった	4名	d. 勉強にならなかった	名	

B. ご意見・ご感想

- ・具体的に他の法人の設立の歴史を聞いて興味深かった。
- ・先生の今後を見据えた取り組みは大変参考になり、今後どういうところに目を向けていきながら変化させていくのか勉強になった。
- ・光生病院での取り組みがよくわかり、岡山市内にありながら同じ敷地内に色々なサービスがあり、とても連携されていると思った。これからの病院像も頭において、これからも仕事をしていきたいと思う。
- ・県中心部であろうと過疎地であろうと関係なく、高齢化による入院患者や外来受診患者数の増加と減少傾向が予想されており、それに応じて医療体制や支援体制を整えていく必要があることを改めて感じた。
- ・人口構造の変化に伴い、地域包括ケアシステムの構築と共に在宅医療を支えていく仕組みや連携が重要になると改めて学んだ。地域包括ケアシステムを推進していくために、自分自身の立場から地域で連携するために何ができるかを意識して今後の取り組みに活かしたい。
- ・少子高齢化していくこの先では今までのように病院単独での支援には限界があり、地域密着型の多機能病院である必要であると話されたところが、今後についてより考えさせられた。

2. 事例発表「コロナ禍での入退院支援 ～県北・県南病院の取組状況～」を聞いて

（発表者：湯原温泉病院 石堂晃教 上級主任社会福祉士、片山真弓 主任看護師
岡山リハビリテーション病院 仲井祥代 診療技術部 患者医療支援室 ソーシャルワーカー
（社会福祉士）主任、山本良太 リハビリテーション部 作業療法室（作業療法士））

A.

a. 大変勉強になった	6名	c. どちらとも言えない	名
b. 勉強になった	5名	d. 勉強にならなかった	名

B. ご意見・ご感想

- ・自院でも活用出来そうな方法を知ることができた。
- ・リモート訪問等、オンラインの活用について深めることができた。
- ・どこの病院でもコロナ禍で同じ悩みを持ちながらも、いろいろな工夫をして退院支援を行っていることがわかった。当院で活かせることは行っていきたいと思う。
- ・県北の病院は対象地域が広域であり、医療や福祉資源が限られている中の病院での支援について、当院でも検討していければと考えさせられた。
- ・コロナ禍により面会や訪問が制限される中で、各病院の取り組みを知ることができて勉強になった。中でも家屋環境の調査方法において、調査シートやリモート訪問の活用、状況に合わせてできる工夫など、視野を広げる機会となった。
- ・地域によって社会資源の変化も様々であり、コロナの現状も異なるため、それに対応した支援が求められる。Z o o mを活用したり新たな共有方法を検討している例なども聞くことができた。
- ・コロナ禍での対応は今まで経験のない工夫が必要となっている。不便と感じることも多いが、今まで気にしていなかったことに気づかされ、他の病院の経験を聞くことができてとてもよかった。
- ・I C Tを活用した取り組みについては、自院でまだ導入できていない方法を教えてもらい大変参考になった。また、同じ悩みで試行錯誤しているのはどの病院も同じであり、同じ気持ちで取り組める心強さを感じることができてよかった。

3. グループワークへ参加して（テーマ：～コロナ禍での入退院支援～）

A.

a. 大変勉強になった	4名	c. どちらとも言えない	名
b. 勉強になった	3名	d. 勉強にならなかった	名

不参加4

B. ご意見・ご感想

- ・他の機関がコロナ禍においてどのように取り組んでいるのか参考になった。
- ・普段、他の病院の対応について聞く機会が少ないため、情報交換ができてよかった。
- ・Z o o mでのグループワークが初めてなのであまり発言ができなかったが、皆さんコロナ禍で今まで以上に支援する際に苦労していることがわかった。どの病院も同じようなケースで支援に時間がかかる、退院後も家族からこの状態だとは思わなかったと言われたなど、思い当たることが多く共感し、これからも頑張っていこうと思った。
- ・他の病院での取り組みや実情をしっかりと聞くことができてよかった。ほぼどこも同じ悩みであり、また関心させられたり、これから取り入れることができれば、と参考になる話もあった。
- ・それぞれの病院での取り組みやファシリテーターからの問いはいつも考えていることと同じ内容であり、どこの病院も悩みは同じであることで少し安心を感じた。他の病院の話は参考になることが多く、今後活かせるようにしたい。

4. 地域包括ケア研究会で今後、取り上げてほしい内容

- ・今回の研究会後の各病棟での取り組みや、その後変わったことなどを話し合いたい。
- ・地域包括ケア病棟(60日)で退院に向けられているか。(当院の入院患者は高齢なため)
- ・看護師への研修を行っているか。(一般病棟と地域包括ケア病棟での看護師側の支援の違いについて)
- ・今後もコロナ禍は長期になると思うので、事例を通じての工夫など情報共有をしていきたい。
- ・「在宅を支えている側のケアマネや介護サービス・障害サービス等のスタッフと病院スタッフの情報共有のあり方」などをテーマにしてほしい。

【職 種】

社会福祉士	4
看護師	3
MSW	2
SW	1
ケアマネ、クリニック、 訪問看護、訪問介護、 通所系サービス等の スタッフ	1

【所属施設種別】

病院	9
介護医療院	
老健	1
その他	1